



JSQC ニュース

No.301

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 会員満足度調査の結果です!!
- 2-私の提言 QMS社内標準は生きてますか?
- 2-ルポルタージュ 第348回関西事業所見学会ルポ
- 3-ASQ名誉会員就任、受賞おめでとうございます / 4月の入会者紹介 / 教員公募
- 4-会員名簿改訂のお知らせ / 行事案内

会員満足度調査の結果です!!

会員サービス委員長・成城大学 神田 範明

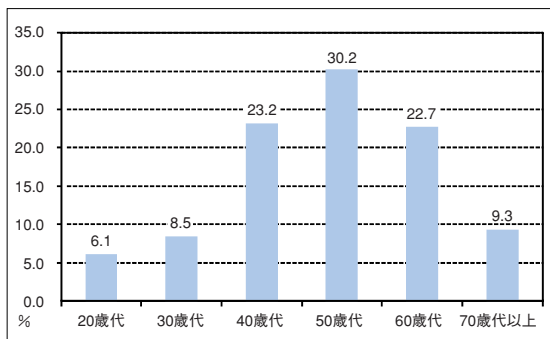
皆様、会員サービス担当理事の神田です。先般は年度初めの多忙な中、会員満足度調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。厄介な調査にも拘わらず多数の会員から熱心な回答をいただき、心より感謝申し上げます。

この調査は2010年4月12日にメールアドレスを登録している会員全員に配信し、各会員から結果を送信していただく形を採用しました。返信数は607通、回収率は25.3% (この種の調査としては高率!) です。

以下その要点を報告させていただきます。詳細は追って学会ホームページにも掲載予定です。

(1) 回答者の属性

・性別 / 男性94.5%、女性5.5%で、男性が圧倒的です。



・年齢 / 20歳代から70歳代以上まで広く分布しますが、50歳代が最多で30.2%を占め、若手は少数です (図1)。

(2) 行事の参加と満足度

・参加人数は多くないですが圧倒的に高評価なのが事業所見学会・Qパブ / QCサロンです。逆に、参加人数が多いにも拘わらず評価がやや低目なのが研究発表会です (低いと言っても満足度平均で3.8はあります)。

(3) 学会誌・学会広報 (JSQCニュース、メールニュース、学会ホームページ) を読む程度と満足度

学会誌 (特に特集記事) ・JSQCニュースは良く読まれており、わかりやすさ・読みやすさ共にJSQCニュースがトップで、論文が最も低くなっています。満足度は共に3.5前後で大差なく、全般に行事よりは低いですが、まずまず高い数値です。

(4) 学会全体に対する評価

研究者と企業人で明白な差が生じ、研究者では評価がすべてにおいて高く、特に最も重要な「有益な情報が得られる」の平均が4.0、「役立つ」は3.9であり、満足度3.9、継続意向も4.3と当学会を重視しています。一方、「会員間・産学間の交流」は3.3~3.4程度で多いと思われてはいません。

圧倒的多数を占める企業人では、最も重要な「有益な情報が得られる」3.7、

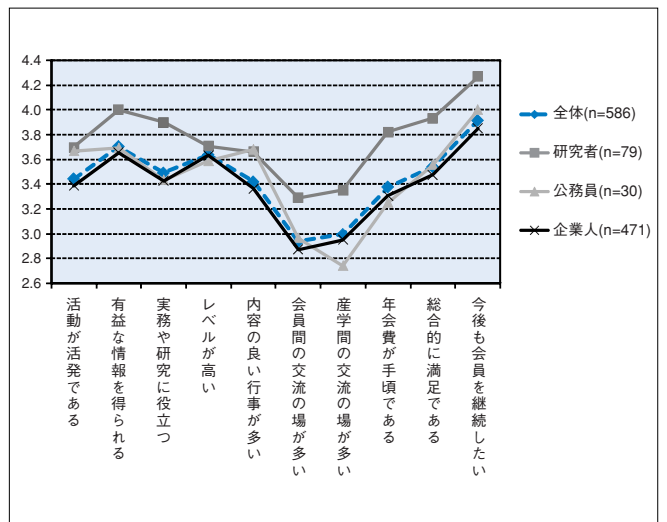


図2 会員属性別・満足度評価

「役立つ」3.4であり、満足度3.5、継続意向3.9で全体ではまずまずと言えますが、「会員間・産学間の交流」は2.9前後で、評価は低くなっています。

(5) 新規サービス (仮説案) への評価

圧倒的に支持されたのは「品質」誌での論文の解説記事の掲載67%、次がやさしく解説してくれるセミナーの開催53%。いずれも企業人の「もっとわかりやすく」という声の表れです。また、企業人が専門家に直接相談できる場の創設52%、産学協同研究の仲介34%、会員交流の場の増強33%などの要望が多くなっています。

以上のようにおかげさまで様々な課題が浮かび上がって来ましたが、更に多様な角度から詳細な検討を続け、40年度に向かって価値の高い学会、会員に役立つ学会を目指していきたいと考えております。

● 私 の 提 言 ●

QMS社内標準は生きていますか？

日本規格協会 平岡 靖敏



日本にISO 9001による認証制度が広がり始めて15年余りが経ち、認証企業ではQMS事務局の交替が

徐々に進んでいます。それに関して最近「形式だけの引継ぎしか行われていない」という言葉を時々耳にするようになりました。

形式だけの引継ぎとは、確立・維持されているQMSの仕組みを、その目的を理解することなく、ただ受け継いだだけのため、問題が発生してもその仕組みが機能しない、機能させること

ができない状況となっていることを意味します。

企業のQMSは多くのプロセスから成り立っており、それらが統合的に管理されなければ意味が無いことは当然ですが、個々のプロセスもそれぞれ果たすべき機能があり、その目的に合致した管理がなされなければなりません。

その意味で事務局はQMS全体の目的と有効性を理解すると同時に、個々の仕組み・機能について、その目的を理解していることが不可欠です。

ところで、我々は社内標準化を含めて標準化によりさまざまな便益を得ています。しかし標準化を進める際には、

ある状況・環境において、決めた目的を達成するために最適の方法を標準としていかなければ、目的が達成できないばかりか逆に不利益をもたらす場合もあります。また、制定した標準はずっと使えると誤解している方もまだまだ多いようですが、必要に応じて見直しや改訂を行うことが重要です。

ISO9001が要求しているのはQMSの仕組みの確立と実行、そしてその維持ですが、その活動は「社内標準化」そのものです。

QMSを取り巻く環境の変化のスピードは年々速くなっています。構築された仕組みの本質が理解されないままでは、変化に対応した仕組みの見直しも不可能です。個々の仕組みを一つずつ、それぞれの目的と機能を全体のQMSにおける位置づけとともに見つめ直して最適化を図り、活かしたQMS社内標準を維持して頂きたいと考えています。

第348回関西 事業所見学会 レポート

建設機械メーカーの 品質保証活動

平成22年4月16日(金)第348回事業所見学会がコマツ大阪工場にて39名の参加で実施された。会議室でのコマツ事業戦略、品質体系、人材育成の実践説明後、2台のバスで工場内まで入る見学が行なわれ大型建機の組込み作業を全員興味深く見学、説明を受けた。

広いエリアを熟練した作業者が安全迅速にクレーンを駆使して完成させていくが作業認定には技能訓練『匠道場』が存在し、品質レベルの維持管理を継続している。生産過程もIT入力にて工場内ディスプレイで上司が進捗、品質確認する仕組みが機能しており多種、少生産への転換も支障なく移行中との説明があった。

見学後の質疑応答では大阪工場の全部門責任者が出席し、参加者から熱心な質問、意見が多数出された。コマツは1917年に石川県に創設、世界第2位の建設機械メーカーで売上2兆円、従業員4万人の大企業であり、2006

年からの現場力強化策“コマツウェイ”の実践ではモノづくり現場QCサークル活動の継続、活性化が有名である。また現場の品質管理のキーは「トップダウン」「ボトムアップ」と共に部課長クラスの「ミドルアップ・ミドルダウン」が重要であると認識し、ミドルの育成とミドルを核とした実践活動を推進、経営方針である品質と信頼性の向上活動に繋げている。

顧客戦略では(KOMTRAX)が新聞でも取り上げられたが魅力あるシステムである。小型で操作性に富み建機の稼働状況や使用環境がリアルタイムでデータ採取できコマツと購入顧客を直結一元化することができた。さらに故障や危険予測など建機に要求される“品質課題”を先取りできるツールとして評価は高く、業界全体に拡大されることを希望したい。大阪工場の拠点特徴として、国内数カ所の重点「マザー工場」の中で最重要部品“ギア=歯車”を一括生産し全拠点に供給していることも付け加えたい。広大な敷地での整理整頓された大型部品の在庫、配置などシンプルながらお客様志向を5S面でも工場全員が意識高く実践されている姿も印象的であった。

小西 龍太郎 (皆見電子工業(株))

ASQ名誉会員就任、受賞おめでとうございます

第20年度会長・赤尾洋二氏がASQ（アメリカ品質協会）の名誉会員に 第30～31年度会長・狩野紀昭氏が同協会 Distinguished Service Medalを受賞

去る5月23日に、アメリカのセントルイス市（ミズーリ州）で開催されたASQ（アメリカ品質協会）の年次大会で、本学会の名誉会員・元会長の赤尾洋二氏が同協会のHonorary Member（名誉会員）に推薦、就任されました。長年に亘るASQへの貢献と顕著な品質管理活動の功績を残した会員が推薦、就任されるもので、これまでの名誉会員は23人、過



去日本からは石川馨（1986年）、田口玄一（1997年）、近藤良夫（2004年）の3氏が就任されています。

また、この度元会長の狩野紀昭氏が、同協会から標記 Distinguished Service Medalを受賞されました。同氏のASQからの受賞はGrant Medal、Lancaster Medalに次いで3回目ですが、この度のDistinguished Service Medalは、品質活動を長期に亘り実行・推進し、その原動力として個人の生涯を通じた貢献を

称えるもので、社会全体の利益のために、品質の理念・手法・技術の普及に尽力した個人もしくはASQの代わりに模範的な活動を行い、社会のために持続的に尽力してきた個人に授与されるものです。



受賞に当たりASQからは、「TQM思想における抜群のリーダーシップを発揮できるひとりとして、品質理念を見事に推進し、品質原理を効果的に伝達、またグローバルに品質手法の教育に取り組み、創造的に魅力的品質理論を生み出した献身的な功績」という選定理由が寄せられています。

本Medalは、ASQ最高の榮譽として2001年に創設されていますが、これまで27人の方々が受賞され、日本からは、赤尾洋二（2001年）、近藤良夫（2002年）、米山高範（2008年）の3氏が受賞されています。

就任、受賞誠におめでとうございます。

2010年4月の 入会者紹介

2010年4月19日の資格審査において、下記の通り正会員23名、準会員9名の入会が承認されました。

.....
(正会員23名) ○小林 直子 (アヴァシス) ○郭 依群・呉 暁波 (杭

州東忠科技) ○海澤 幸生 (ペリージョンソンレジストラ) ○栗原直人 (練馬総合病院) ○大野 秀樹 (トヨタ自動車) ○八木沼 和栄 (大内新興化学工業) ○大橋 直樹 (大橋アドバイザー) ○田中 栄一 (東芝シグマコンサルティング) ○三浦正彰 (クロスキャット) ○安藤 文彦 (京都大学) ○島村 瞬 (リコー

○松村 浩之介 (タカラベルモント) ○ HERBAS, Torrico Boris Christian (東京工業大学) ○高田逸男 (パナソニック電工) ○栗原佳明・井田 稔・野木 隆・内田均・星野 敬 (サンデン) ○亀田徹 (PHP研究所) ○坂本 英樹 (東京エレクトロンAT) ○櫻又 康秀 (富士産業)

.....
(準会員9名) ○工藤 雅己・大塚祥子 (電気通信大学) ○石黒 久稔 (青山学院大学) ○内野 慈 (首都大学東京) ○堀井 一石 (東京理科大学) ○富田 健児・清水 健嗣 (中央大学) ○林 一樹 (早稲田大学) ○森田 祥平 (東京都市大学)

教員公募

青山学院大学理工学部経営システム工学科 教員公募

1. 募集人員 教授または准教授 1名
2. 所属 理工学部経営システム工学科
3. 専門分野 経営工学 (IE・生産管理)
4. 応募資格 (1) 博士の学位を有し、学部および大学院の教育・研究に熱意のある方、(2) 専門分野について優れた業績を有する方、(3) キリスト教に理解のある方、(4) 相模原と青山の両キャンパスに出講できる方。
5. 着任時期 2011年4月1日
6. 提出書類 ホームページをご覧ください。
http://www.aoyama.ac.jp/other/recruit/faculty_staff_48.html
7. 応募締切 2010年7月12日(月) 消印有効
8. 書類送付先 および連絡先
青山学院大学理工学部経営システム工学科 学科主任 天坂 格郎
e-mail: saiyo@ise.aoyama.ac.jp

正会員：2521名

準会員：77名

賛助会員：159社185口

公共会員：24口

会員名簿と会員データベースについて

会員サービス委員長 神田範明 (成城大学)

会員満足度アンケートの結果、従来型会員名簿の希望者に比べ、「検索可能な会員データベース」を希望される方が約半数とかなり多いことがわかりました (特に若手の中で圧倒的)。従来の名簿は個人情報保護の点から内容が希薄となり、今後は多様なニーズに対応できる会員データベースを充実させていく方針を理事会で決定いたしました。

これに伴い名簿発行を停止いたします。ご理解をお願い申し上げます。データベースを整備すると、会員間の交流が今の何倍にも広がります。皆様にキーワードを登録していただき、その検索により、ある問題の専門家を探して直接相談したり、産学協同研究を依頼したり、調査や実証の協力者を探すことが容易になります。新規に研究グループを作る参考にもなります。

改めて会員情報の登録をお願いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

行事案内

●第109回講演会 (関西)

テーマ：環境成長経済に立ち向かう企業戦略

日時：2010年6月25日(金)14:00～17:20

会場：大阪大学中之島センター
10階メモリアルホール

プログラム：

講演①：「第5軸の競争軸

～21世紀の新たな市場原理～
ピーター・D・ピーダーセン氏
(株)イースクエア)

講演②：「脚光を浴びる太陽光発電

～その可能性と長寿命化への課題～
桑野幸徳氏
(太陽光発電技術研究組合)

参加費：会 員3,000円 非 会 員4,000円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

●第346回事業所見学会 (本部)

テーマ：トラックの新たな生産方式のご紹介

日時：2010年6月29日(火)14:00～16:15

見学先：日野自動車(株) 本社・日野工場
定 員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費：会 員2,500円 非 会 員3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込締切：6月28日(月)到着分まで

(定員になり次第締切)

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第132回シンポジウム (中部)

テーマ：「実践的Qの確保」の構築に向けたTQM活動の進化と拡大
一品質の確保に向けて我々は何をなすべきか—

日時：2010年7月2日(金)10:30～16:30

会場：シャインズ 3Fシャインズホール

定 員：150名

参加費：会 員5,000円 非 会 員7,500円
準会員 2,500円 一般学生3,500円

申込締切：6月18日(金)

プログラム：

基調講演「Qの確保—信頼性・安全性の確保と未然防止—」

鈴木和幸氏

(JSQC会長、電気通信大学)

事例講演①「「品質問題」をなくす設計と設計審査」

本田陽広氏 (株)デンソー)

事例講演②「設計のヒューマンエラーとその防止策」

麻田祐一氏 (アイシン精機(株))

事例講演③

「製品安全とトレーサビリティ」

澤野謙二氏

(セイコーエプソン(株))

事例講演④「CS向上につながるサービス・マネジメント革新」

安達俊行氏

(NECパーソナルプロダクツ(株))

申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。

●第351回事業所見学会 (関西)

テーマ：ヤクルトの品質保証から学ぶ～新興国での消費も拡大する安心を安定的に提供するヤクルトの工夫

日時：2010年7月13日(火)午後

見学先：ヤクルト 京都工場

定 員：30名

参加費：会 員2,500円 非 会 員3,500円
準会員1,500円 一般学生2,000円
※当日払い

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

●第70回クオリティパブ (本部)

テーマ：車載情報機器を取り巻く状況と品質確保への対応

ゲスト：皆川昭一氏

(JSQC副会長・クラリオン(株))

日時：2010年7月26日(月)18:00～20:30

会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名

参加費：会 員3,000円 非 会 員4,000円
準会員・一般学生2,000円
(含軽食・当日払い)

詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第93回研究発表会 (中部) 発表募集

日時：2010年8月25日(水)10:00～17:00

会場：名古屋工業大学

申込締切：

発表申込締切：5月31日(月)

予稿原稿締切：7月23日(金)必着

参加申込締切：8月18日(水)

詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。

●第94回研究発表会 (関西) 発表募集

日時：2010年9月10日(金)

会場：大阪大学中之島センター

申込締切：

発表申込締切：7月23日(金)

予稿原稿締切：8月25日(水)

詳細：ホームページをご覧ください。
<http://www-sys.ist.osaka-u.ac.jp/jsqc-kansai/index.htm>

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail:nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail:kansai@jsqc.org